差別化進むサ高住

診療所併設 〝いきがい〟へ労働機会

丸竹コーポ 東建コーポ

泉南市「フラワーホーム」

大阪府南部の泉南市内で、昨年11月にオープンしたサービス付高齢者向け住宅（サ高住）「フラワーホーム」が、「通常のサ高住にはない異例のアイデアが盛り込まれている」と話題を集めている。まず、1階にクリニックを併設、緊急時にも医師が即時対応できるようにした。これ自体が数少ないがフラワーホームではさらに、入居者に報酬を伴う簡易な軽作業労働機会を多数用意することで、シニアの活動意欲と社会活動への参加意欲を刺激、リタイア後引きこもりがちな高齢者の社会再復帰を促す工夫も投入した。安倍晋三首相が提唱する「1億総活躍社会」の具体化を先取りした点も話題の1つにあがっている。

1億総活躍のモデル

フラワーホームの運営主体は、地元・泉南市で災害用備蓄・業務用環境毛布などを取り扱う炭素繊維加工・土木フェルト製造・販売の丸竹コーポレーション（大阪府泉南市、立花克彦社長）。自社クリーニング工場を保有、布団の丸洗いを行えるなど、「いつでも清潔な心地よい布団で休んでいただける」本業の強みを生かしての介護事業への新規参入を模索していた。

大阪府内ではサ高住が乱立気味だが、老人ホームも含め供給エリアは北部に偏っており、特に貝塚市以南は空白エリア。同社はそうしたリサーチも踏まえながら、3年前に市内で約1952㎡の用地を取得、13年に開設準備室を設置、昨年3月にシニア事業部を立ち上げるなど、十分な準備期間を経たうえでサ高住の自社運営に踏み切った。

施設は地上3階建て、延べ床面積3906㎡で、居室数は40室（定員42名）。18㎡のシングル向け居室を中心に30㎡の二人部屋も用意した。1階に個浴、機械浴をそれぞれ4カ所、1カ所配置。食事は給食会社から食材を仕入れ、現場スタッフが提供する。

最大の特徴は、1階にグループのクリニックを併設、入居者の心身・精神的安定を日常的に維持できる医療ケア機能を整備した点。一般的なサ高住に比べて遥かに能動的なケアサービスを提供できるほか、同社が別に運営する訪問看護ステーションや居宅介護支援事業所とも連携することで紹介患者受け入れにも対応するなど、地域包括ケアネットワークの一環も担う。

フラワーホームは「新・サ高住」モデルを示す

一方、希望者を対象に簡易な軽作業のアルバイト機会を多数用意、活動的な入居シニアに報酬を伴う「再活躍」の場も提供する。リタイア後の積極的な再復帰を通じて健康増進を図りながら、生きがいも同時に実感できるようにする工夫だ。「はたらく喜び」を感じることで老いの進行や引きこもりを極力回避し結果的に医療費の膨張を抑制するだけでなく、人口減少時代をにらみ高齢者を労働力として再活用する筋道を示すことになる。

アルバイトの軽作業は、食事の配膳といったフラワーホーム内の作業補助や、丸竹コーポの本業周辺の補助業務が対象で、週2回2時間程度を想定している。同社にとっても貴重な労働資源になる。

ホームの設計施工は、土地活用大手の東建コーポレーション（名古屋市、左右田稔社長）が担当した。サ高住建物の商品化は東建コーポにとっても第1号案件で、計画・準備段階から丸竹コーポを全面支援、開所にこぎつけた。

フラワーホームは両社にとってのモデル事業で、特に東建コーポはフラワーホームでノウハウを蓄積し、サ高住向けの「アクティブ・シニアマンション」として、①介護の必要のないシニア向け②要介護者向け③両者折衷の複合型—の3タイプをそろえながら本格展開する。

オピニオン～インタビュー

〝新たな変貌〟目指し

シニア事業への挑戦・丸竹コーポ

災害用・備蓄用毛布などの製造業者が、なぜ「サ高住」市場への参入なのか。泉南市初のサ高住「フラワーホーム」運営会社で繊維製造の丸竹コーポレーション、立花克彦社長に聞いた。

〝得意〟を生かす

——新たにシニア事業へ進出しました。

「十数年ほど前、2030年には3分の1が65歳以上になるとの記事に衝撃を覚えたが、同時に他業種に参入するのならば、人口密度が高い世代向け商品・サービス分野との考えはあった。そんなとき知ったのが『サ高住』の存在だった」

「この時点では人・モノ・カネ・情報などの当社の経営資源から参入には時期尚早だと判断、当面、大阪府内のシニア向け事業所や関連施設を視察するなどリサーチに時間を当てた。その過程で、高齢者向け施設で重要な要素の1つにリネン関係があることを知った」

——リネン関係は本業。

「特に布団の丸洗いは当社の得意中の得意。サ高住でも清潔な寝具の用意を約束できるし本業との相乗効果も期待できる。現状を分析し（新規事業への）『時期が来た』と判断したのが3年ほど前。そのタイミングで地元・泉南市内の土地購入の話が舞い込みそこを用地として取得した。その足で30数年間に渡り師事する左右田鑑穂師匠（左右田稔東建コーポレーション社長兼会長）へ説明にあがったところ、『よし解った。一緒に勉強しながら進めよう』と快諾頂き、並行して東建社内にプロジェクトチームも立ち上げ、設計から運営に至るあらゆる分野のスタッフも派遣して頂いた」

〝元気な日はアルバイト〟

製造業のノウハウで「新しい形」

「また医療福祉に約30年携わり豊富なノウハウと経験を持った専門家の同級生とも再会する縁にも恵まれ執行役員として参画してもらうことになり、当社のISOコンサルティング業務に携わりご指導頂いている先生の参画と事業連携も実現するなど、スピードと最大限のレスポンスを持って進み出すことができた」

——事業の新たな柱として育てていく。

「テキスタイル製品の製造及びクリーニング関連と土木資材製造関連の2つの製造業をメインにその他数種の事業を行っているが、次のメイン事業コンセプトに『将来の経営資産構築』と『地元地域への貢献』を据えている。その具体分野・事業がシニア事業であり、サ高住『フラワーホーム』。昨年11月5日にスタートし、訪問看護や訪問介護のサービスも順次開始し、2月には『フラワークリニック』を施設内に開設。リハビリステーションも計画中だ」

「料金も年金の範囲内で入居できるよう設定。費用面でも実は奇跡的な展開であったし、様々な協力者・支援者との巡り合せや福祉の専門家との再会も幸運だった。大袈裟ではなく天が『世の中の役に立たせてもらえ』と背中を押してくれているような気がしている」

丸竹コーポレーション 社長 立花 克彦氏

「当社は福祉分野と以前から関連が深いという強みもある。私自身、大阪府立砂川厚生福祉センター雇用促進協力会の役員を務めたし、当社でも95年から障害者雇用に取り組み厚労省の重度障害者多数雇用事業所認定を受けている。泉南市立砂川厚生福祉センターから障害のある方たちの雇用実績があり現在も5名の障害者が勤務してくれている。障害者の方たちとの共働の経験・ノウハウは『フラワーホーム』運営に活かせる部分も多い」

——具体的には？

「施設および関連工場での身体的負担の少ない軽作業アルバイト制度導入による高齢者生産労働の創出、つまり入居者の方たちを短時間アルバイト雇用する事業だ。開所と同時に始めた。『フラワーホームで暮らしながら元気な日はアルバイドしませんか！社会のために再活躍』がキャッチコピーで、あくまでも希望される方に無理のない範囲・元気な日限定で週2回2時間ほど働いて頂く。散歩代わりのポスティング、ホーム内や当社内・工場内の業務補助など多数だ」

「少子高齢化をにらんだ①高齢者雇用②労働力不足—へのアクションなのだが、実は別の思いもある。高齢者には自分らしく希望を持って笑顔で尊厳のある余生を過ごしてもらいたいという思いだ。社会のために再活躍してもらうことで入居者の方たちに生きがいのようなものを持って頂けるのではないか。自分の力で金銭を稼ぐ、それは自信にもなるのではないか」

「三方よし」の追求

——小さいとはいえ安倍晋三首相の掲げる『1億総活躍社会』の実践になる。

「みんながもう一歩前に出ることができるような日本にと私も強く感じた。『たった1つのゴミでも、国民の1人ひとりが1つずつ拾えば総量は1億2000万個になる』ように積み重ねが大事。当社にできることは何か、その答えがこうしたアクションを起こすことだった」

「元気な日はアルバイト、元気のない日は医療・看護・介護が連携した安心のサポート体制——この展開は日本ではおそらく初めての取り組みであり新しいサ高住の形になる。本業の製造現場があるからこそ高齢者雇用の場も設けられる。同様に国内の製造業とシニア事業がコラボレーションすることで、元気な高齢者に製造業の軽作業部門を担ってもらえるし、『再活躍』することで高齢者の『尊厳』を守り『生きがい』を感じてもらえる。信条とする『三方よし』を追求した形だ。その先に、国や若者も新たな可能性を追求できる社会があるのではと思う」